

1. 取組実績

- (1) 当協会HPにおいて、閲覧者の目に留まるトップページにロゴマークを掲載し、農水省HPをリンク先として周知した。
- (2) 当協会の理事会・総会で使用する資料にロゴマークを掲載し、資料内に本年が国際植物防疫年2020となっていること、当協会がオフィシャルサポーターに認定されたことを掲載し、周知した。
- (3) 当協会内で実施する各種研修で使用する資料にロゴマークを掲載し、職員へ周知した。



当協会HP



定期総会資料

2. 取組による効果

- (1) 当協会会員へは照会の都度、当協会HPを案内しているため、リンク先となる農水省HPまで確認いただいているところ。
- (2) 当協会が本事業にサポーターとして参画していることで、当協会会員へ速やかに周知できた。
- (3) 職員の意識向上に効果があった。

3. 今後の予定・展望

- (1) 引き続き、当協会HPでの掲載を行う。
- (2) コロナ禍で実施出来ない会議等はあるものの、郵送する資料等にはロゴマークを使用して周知を図る。
- (3) 職員に対する研修時にロゴマークを使用して意識向上に努める。
- (4) 植物防疫所が発行する「植物防疫情報」や全植協が発行する「全植検協通報」等、知り得た情報をもって会員への周知を図る。



日本曹達株式会社



1. 取組実績

(1) ホームページでの情報発信

2020年3月12日～

当社ホームページにおいて国際植物防疫年2020オフィシャルサポーター認定について告知。
また、ホームページ内で国際植物防疫年2020のHPへのリンク貼り付けを行った。

(2) 社内広報誌により社員及び家族への周知

2020年5月

社内広報誌『Nisso Life』5月号にて社員・家族向けに国際植物防疫年2020の内容周知と食品の国内への持ち込み、国外への持ち出しについての注意喚起を行った。

(3) 全国農薬営業担当への周知

2020年5月

メール・会議にて当社全国農薬営業担当者へ国際植物防疫年2020の内容周知を行い、関係各所への依頼をした。

(4) 顧客への情報発信 2020年5月～7月

例年600回以上開催している顧客対象の商品説明会において情報発信を行う予定であったがコロナウィルスの影響でほとんど中止となっている。

このような状況下で開催した九州、関東での商品説明会時において国際植物防疫年2020の情報発信を行った。

2. 取組による効果

(1) ホームページでの情報発信

当社ホームページにおける情報発信により、訪問者へ国際植物防疫年2020の内容・活動の周知が出来た。

(2) 社内広報誌により社員及び家族への周知

社内広報誌『Nisso Life』に国際植物防疫年2020の内容を掲載する事により社員及び家族の植物防疫に対する認識を高めることが出来た。

(3) 全国農薬営業担当への周知

農薬営業担当各々に対して植物防疫の重要性・必要性を認識させることが出来た。
また、関係各所への周知が出来た。

(4) 顧客への情報発信

商品説明会時において国際植物防疫年2020の紹介を行ったところ顧客のほとんどが農業関係者であるにも関わらず国際植物防疫年2020に関して情報を得ている人が少ないことがわかり、改めて周知することが出来た。

日本曹達は国際植物防疫年2020
オフィシャルサポーターに認定されました。

が力です。
が力です。



INTERNATIONAL YEAR OF
PLANT HEALTH
2020

2018年12月20日の国連総会において、植物病害虫のまん延防止に向けた取組の重要性に対する世界的な認識を高めるため、2020年を「国際植物防疫年(International Year of Plant Health 2020: IYPH2020)」とすることが採択されました。

農林水産省と企業、団体等の多様な関係者が協力して周知、再認識する目的で、周知活動を行う企業等を農林水産省消費・安全局長が国際植物防疫年2020オフィシャルサポーターとして認定する制度を実施しています。

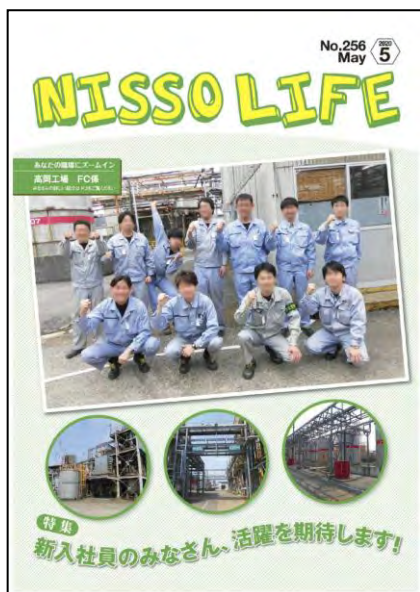
国連食糧農業機関(FAO)によると、世界の食料の80%以上が植物由来であり、このうち20%～40%が病害虫の被害で失われているとされています。このため、FAO及び国際植物防疫年2020(IPPH)事務局は、食料、食料、食料、経済発展等の重要な課題に取り組むためには、植物病害虫の新たな地域へのまん延を防止することが重要であるとしています。

日本においても国内に侵入した、クビアカツヤカミキリ、ツマジロクサヨトウなど、新たな植物病害虫が増えつつあります。日本曹達では、オフィシャルサポーターとして、以下の取組みを通じて、植物病害虫の侵入・まん延防止の重要性の周知に関する積極的活動に取り組んでいます。

【説明会時使用スライド】



日本曹達株式会社



【日本曹達 社内報 NISSO LIFE】

3. 今後の予定・展望

- (1) ホームページでの情報発信を引き続き実施。
- (2) 新聞等への広告掲載
- (3) 商品説明会、展示会等において顧客への情報発信を引き続き実施。
- (4) 8月から開催予定の社内新人教育研修においてに植物防疫に関するプログラムを組み、植物防疫の意義・目的・必要性を理解させる。

<連絡先>

日本曹達株式会社 農業化学品事業部 普及部
川原 正見

TEL. 03(3245)6178 メール: m.kawahara@nippon-soda.co.jp

1. 取組実績

- 現時点での取組実績はございません

2. 取組による効果

- 上記1. 同様、現時点の取組効果はございません

3. 今後の予定・展望

- 当初計画していた、イノベーション本部商談フロアでのポスター掲示（2020年4月～）、および、イノベーション本部夏季見学対応における展示温室へのポスター掲示、農業・園芸関係来場者へのパンフレット配布（2020年8月）については、新型コロナウイルス感染症の影響により、同本部における商談等の来場・受け入れ禁止、夏季見学中止となったため、実施不可となります
- カゴメ会員制コミュニティ・サイト「&KAGOME」下記コンテンツでの周知活動を予定
 - ・ 「トマコミ」内ブログ「集まれ博士の畑」にて、IYPH2020の紹介およびリンク掲示（8月中2回程度を予定）
 - ・ 「カゴメ便り」にて、カゴメのIYPH2020オフィシャルサポーター認定を取り上げ、IYPH2020の紹介とロゴ画像およびリンク掲示（8月予定）
- 一部限定的に実施可能性のある園芸関係商談（Web含む）でのIYPH2020チラシ配布と周知（8月予定）
- 園芸展示会「フラワートライアル・ジャパン」が予定通り開催され、カゴメ参加の場合、会場ブースでのポスターによる周知（実施の場合は9月予定）

1. 取組実績

(1) ホームページによる情報発信

当会ホームページにおいて、オフィシャルサポーターに認定された旨及び国際植物防疫年2020ロゴマークを掲載するとともに、ロゴマークをクリックすると農林水産省の該当ページにリンクするようにして啓発を行っている。

(2) 当会事業における紹介

当会で行っている『植物防疫専攻者への育英費支給』事業において本年度対象となった大学院生（4名）及びその指導教員に対し、また『就農希望者への奨学金供与』事業において本年度対象となった県農業大学校生（4名）及びその指導教員に対し、今年は国際植物防疫年2020である旨及びWebサイトをお知らせして啓発を行った。

(3) シンポジウムの開催

9月24日に開催予定の植物保護に関するシンポジウムは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策等により止むを得ず中止となった。本シンポジウムでは植物防疫課担当官による国際植物防疫年に関する講演を予定していた。

報農会ホームページ→



2. 取組による効果

(1) ホームページによる情報発信

ホームページへのアクセス者に対して植物防疫の認知度、重要性が高められる。

(2) 当会事業における紹介

植物防疫関係者、農業従事予定者などに対し啓発を行うことにより、植物防疫の必要性、重要性が高められる。

3. 今後の予定・展望

引き続きホームページでの情報発信を行う。

<連絡先>

公益財団法人報農会事務局 [TEL:042-452-7773](tel:042-452-7773) E-mail:khono511@car.ocn.ne.jp

1. 取組実績

(1) ホームページでの情報発信

当社ホームページにおいて、植物防疫年の取り組みを発信（7月より公開）。

日本語 <http://www.jal.com/ja/sustainability/environment/biodiversity/>
英語 <http://www.jal.com/en/sustainability/environment/biodiversity/>

(2) 機内誌/機内ビデオなどでの周知

機内誌「SKYWARD」2020年5月号に掲載。（紙媒体、電子版両方）

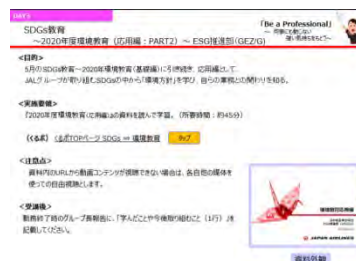
(3) 社員研修の開催

① 2020年2月に、農林水産省の方を招いて各部署の環境マネジメントシステム推進担当者に植物防疫年について講演をいただいた。

② 2020年7月に、客室本部全社員は、植物防疫年を含む環境のE-learningを受講。



農林水産省の方によるご講演



社内環境E-learning

2. 取組による効果

(1) ホームページでの情報発信

当社ホームページにおける情報発信により、多くの方にご覧いただいた。

(2) 機内誌/機内ビデオなどでの周知

機内誌「SKYWARD」2020年5月号に掲載。（コロナの影響で閲覧数減。通常期間の参考：毎月約366万人）

(3) 社員研修の開催

社員研修に約6000人が参加。参加者からは「人の検疫、肉の検疫だけでなく、植物の検疫も非常に重要だと分かった。今後社内に周知を図りたい」という声が上がった。

3. 今後の予定・展望

(1) ホームページでの情報発信

9月末掲載予定の「JALレポート」（統合報告書）にも掲載して発信。

(2) 機内誌/機内ビデオなどでの周知

9月～12月国際線、10月～12月国内線の飛行機に植物防疫年のビデオ（日・英）を上映する予定。



機内ビデオイメージ

1. 取組実績

ホームページでの情報発信

弊社ホームページに「国際植物防疫年2020」のバナーを掲載し、訪問者に告知した。

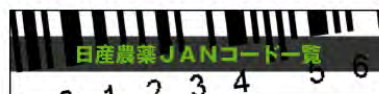
春夏秋冬レポート



作業工程に余裕を生み出すレスキュー剤「アレイルSC」。
茎葉処理除草剤なのに、田面・水面に落ちた成分が根からも吸収！
新しい水稻用茎葉処理除草剤「アレイルSC」をご紹介します。先
ずは「茎葉」から、次に「根」から。アレイルは二段構えで吸収。
アレイルSCは…



速く効く。あの害虫にも効く。だから、収量に差がつく。
日産化学の新しい殺虫剤「グレースシア乳剤」
「効きの速さ」と「対象害虫の幅広さ」を兼ね備えた殺虫剤「グ
レースシア乳剤」が登場。その魅力に迫ります。殺虫剤に求められ
ること、それは「収量を確保すること」。殺虫剤の役割は「害虫
を駆除すること」だけで…



ニュースリリース

- 2020/07/08 日産スピノエース顆粒水和剤適用拡大登録 (7月8日付)
- 2020/06/24 日産エクシレルSE適用拡大登録 (6月24日付)

2. 取組による効果

弊社ホームページの「国際植物防疫年2020」のバナー掲載ページへのアクセス数は、4～6月で約11,500人となった。

農水省の国際植物防疫年2020のホームページと掲載動画を見て、植物防疫の具体的な取り組み初めて知ったという声があった。

3. 今後の予定・展望

一般消費者で植物防疫を正しく理解している人はまだまだ少ないと思われるが、引き続きホームページでの情報発信を継続して、植物防疫の重要性を広く告知していきたい。

<連絡先> (日産化学株式会社)

農業化学品事業部マーケティング部 加藤

03-4463-8270 katoua@nissanchem.co.jp

1. 取組実績

(1) ホームページでの情報発信

当協会ホームページにて国際植物防疫年2020のロゴマークを添付して、協会関係者に発信（令和2年7月末公開予定）

(2) 広報誌、送付物での周知

当協会から会員（約150社）向に総会議事録にロゴマークを添付し送付。

(3) 関係者とのメール連絡時での周知

職員個々のメール送信時にロゴマークを添付。



2. 取組による効果

(1) ホームページでの情報発信

当協会ホームページは令和2年7月末公開予定の為、現在効果なし。

(2) 送付物での周知

現在効果なし。（令和2年5月認定）

(3) 関係者とのメール連絡時での周知

輸入貨物の検疫打合せ時に通関業者様よりロゴの話があり植物検疫の始まりや重要性について説明を行った。

3. 今後の予定・展望

(1) 7月末公開予定のホームページにて情報発信し周知を行う。

(2) 送付物での周知

(3) 関係者とのメール連絡時での周知

2、3のロゴマーク添付を話のきっかけとして私ども大阪植物検疫協会の目的でもある植物検疫に関する啓発及び指導を荷主はもとより植物の輸出入に関わっている方へ周知していく。



三州産業株式会社



INTERNATIONAL YEAR OF
PLANT HEALTH
2020

1. 取組実績

(1) ホームページ・Facebookでの情報発信

当社ホームページ及びFacebookにおいて、5月1日に国際植物防疫年2020オフィシャルサポーター認定についてお知らせ。農林水産省ホームページをリンク。



2. 取組による効果

(1) ホームページ・Facebookでの情報発信

当社ホームページによる情報発信により、植物防疫を初めて知ったという声も届いた（5月1日から7月15日までのアクセス数 2536人
（国内94・5％・海外5・5％）

3. 今後の予定・展望

(1) 引き続きホームページ・Facebookでの情報発信を通じて広報活動を実施する。

(2) 2020年度版経済産業省グローバルニッチトップ企業 公表資料での紹介

(3) 10月に鹿児島市で開催が予定されているイベントの発表の場にて、紹介

<連絡先>（任意）

三州産業株式会社
営業部 海外プロジェクト（古垣 洋次）
TEL：099-269-1821 info@sanshu.co.jp